



2018年3月期(平成30年3月期)

第2四半期決算説明会

2017年11月22日



技術のジャムコは、 士魂の気概をもって



- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

● この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。

● この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。

● 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

SECTION

1

2018年3月期 第2四半期決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益-①
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益-②
- 09 | グループ連結B/S
- 10 | グループ連結 設備投資額/減価償却費/試験研究費
- 11 | グループ各社の状況 (FY17/上期)
- 12 | 通期見通し

SECTION

2

重要項目と課題進捗

- 14 | 中期ビジョン
- 15 | 中期の課題と対応
- 16 | 中期課題の進捗-①
- 17 | 中期課題の進捗-②
- 18 | 中期課題の進捗-③

2018年3月期 第2四半期決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益-①
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益-②
- 09 | グループ連結B/S
- 10 | グループ連結 設備投資額／減価償却費／試験研究費
- 11 | グループ各社の状況 (FY17/上期)
- 12 | 通期見通し

SECTION

1

グループ連結P/L

【単位:百万円】

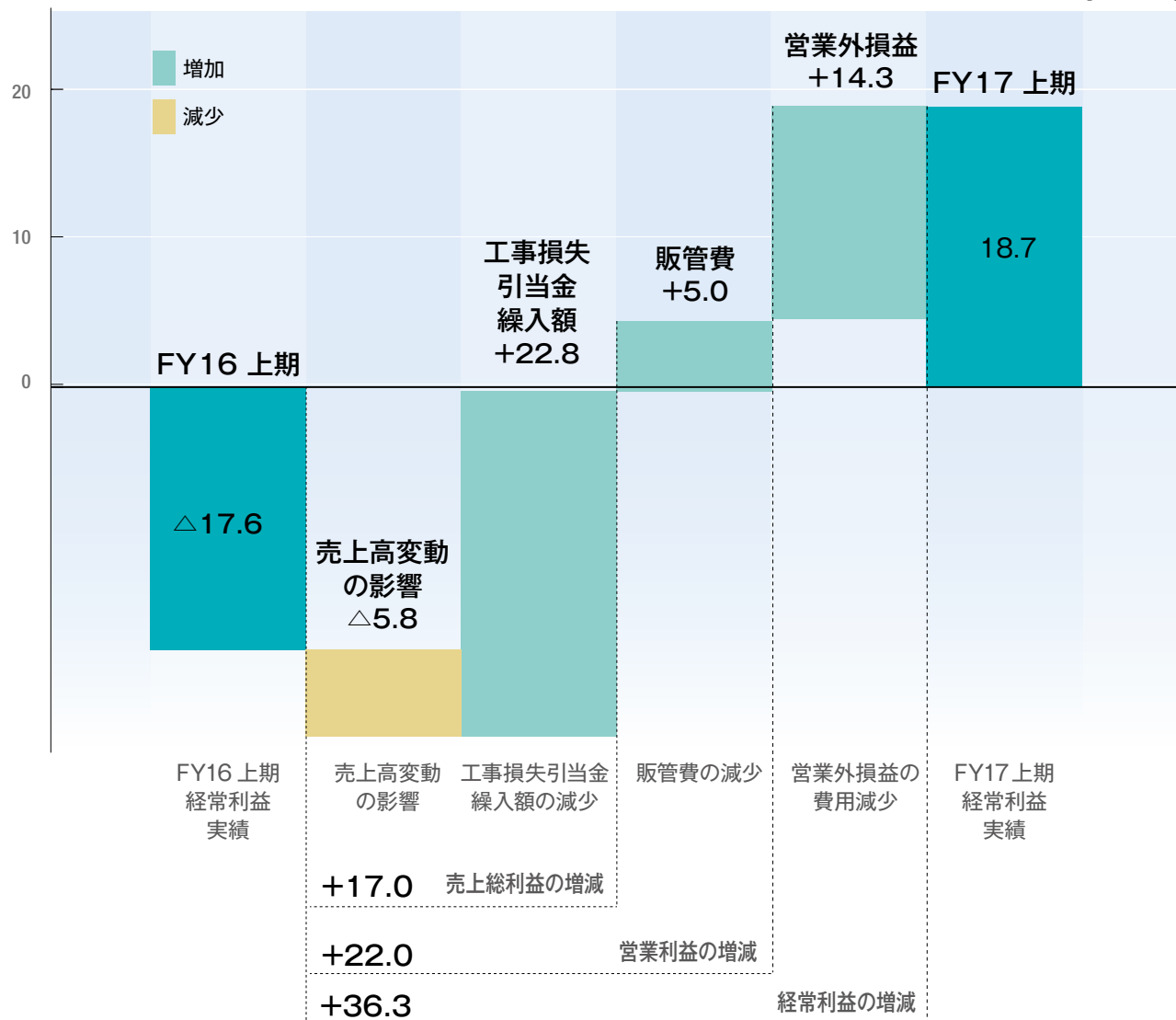
	FY16上期 (実績)	FY17上期 (計画)	FY17上期 (実績)	前年同期比 (増減)	計画比 (増減)
売上高	40,248	40,300	38,043	△ 2,205	△ 2,256
売上総利益	4,142	6,400	5,841	1,699	△ 558
販管費	4,436	4,590	3,934	△ 501	△ 655
営業利益	△ 293	1,810	1,906	2,200	96
営業外損益	△ 1,465	△ 150	△ 33	1,432	118
経常利益	△ 1,759	1,660	1,873	3,632	213
税引前利益	△ 1,784	1,630	1,844	3,628	214
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 1,122	1,050	1,034	2,157	△ 15
1株当たり四半期純利益 (円)	△ 41.85	39.14	38.57	—	—
売上為替レート (円/USドル)	107.76	110.00	110.72	—	—

(注)計画とは、2017年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。

連結経常利益の前年同期比差異要因

■ 前年同期比 +36億円

【単位：億円】



Point

■ 売上総利益

- 777Xへの移行の端境期に伴う売上高変動の影響等
△5.8億円

- 円安及びコスト削減に伴う工事損失引当金繰入額の減少
+22.8億円

■ 販管費

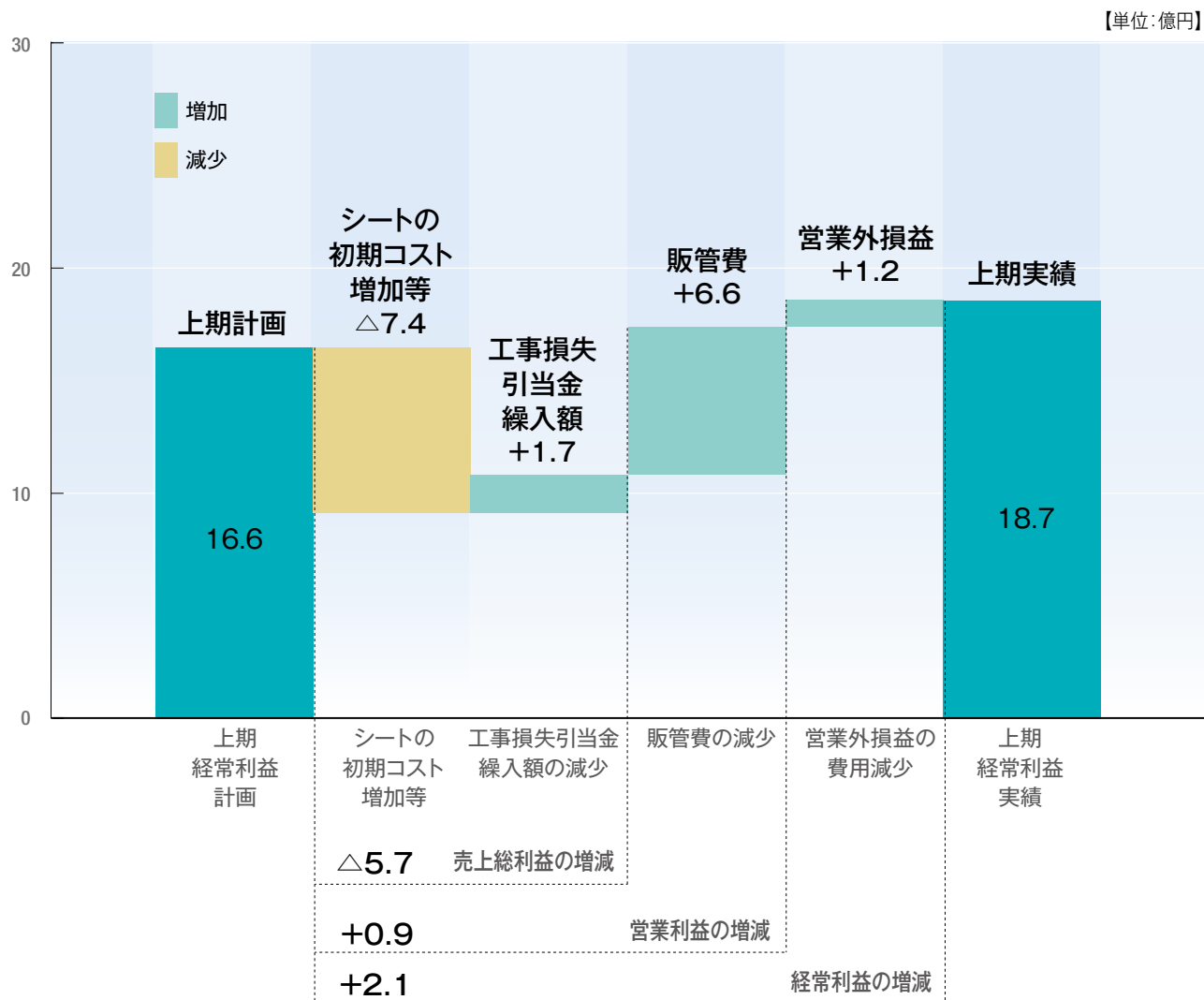
- 保証工事費の削減 +2.5億円

■ 営業外損益

- 前期為替差損の反動 +13億円

1 連結経常利益の計画比差異要因

■ 計画比 +2億円



Point

■ 売上総利益

- 航空機内装品の利益は増加したが、航空機シートの新規プログラムの初期コストの増加等 $\Delta 7.4$ 億円
- 工事損失引当金繰入額の減少 $+1.7$ 億円

■ 販管費

- 試験研究費の減少 $+2.6$ 億円
- 保証工事費の削減 $+1.1$ 億円

■ 営業外損益

- 助成金収入の増加等

1 セグメント別 売上高・経常利益-①

【単位:百万円】

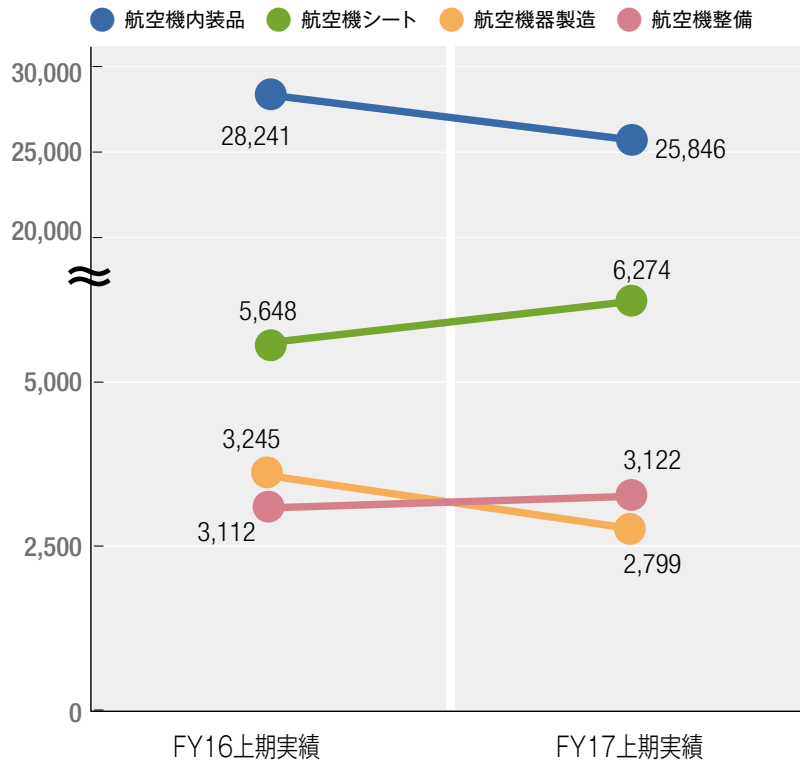
	売上高			経常利益		
	FY16上期 (実績)	FY17上期 (実績)	増減	FY16上期 (実績)	FY17上期 (実績)	増減
航空機内装品	28,241	25,846	△ 2,394	461	3,833	3,372
航空機シート	5,648	6,274	625	△ 2,099	△ 1,860	238
航空機器製造	3,245	2,799	△ 445	△ 85	△ 70	15
航空機整備	3,112	3,122	9	△ 35	△ 30	4
その他	0	0	0	△ 1	1	2
合計	40,248	38,043	△ 2,205	△ 1,759	1,873	3,632

(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

1 セグメント別 売上高・経常利益-②

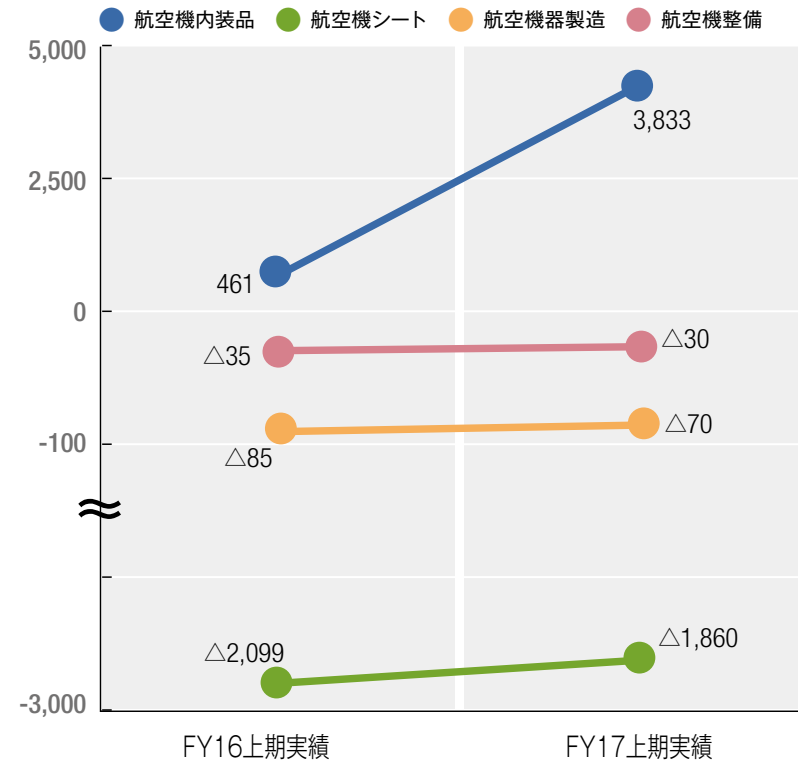
売上高

【単位:百万円】



経常利益

【単位:百万円】



Point

- 内装品は777Xへの移行の端境期によるギャレー、ラバトリーの減少
- シートは新規プログラムの製品出荷とスペアパーツ販売の増加
- 機器製造はエアバスA380型機向け炭素繊維構造部材と熱交換器等防衛関連の減少
- 整備は装備品整備が増加し、機体整備が減少

Point

- 内装品は円安による売上高上振れの影響、工事損失引当金繰入額の減少、前期営業外為替差損の減少等により増加
- シートは新規プログラムの初期コスト増加の影響を受け、急激な円高の影響を受けた前年同期に近い経常損失
- 機器製造は新規品目のコスト削減が進んだものの、熱交換器等防衛関連の売上高減少の影響で前年同期に近い経常損失
- 整備は装備品整備が堅調に推移したものの機体整備の減少の影響により前年同期に近い経常損失

グループ連結B/S

【単位:百万円】

科目	FY16末 2017年3月31日現在	FY17 2Q末 2017年9月30日現在	増減
〈資産の部〉			
流動資産			
現金及び預金	2,277	3,786	1,509
受取手形及び売掛金	23,158	19,908	△ 3,249
棚卸資産	41,360	41,811	450
その他流動資産	5,952	5,398	△ 553
流動資産合計	72,748	70,905	△ 1,843
固定資産			
有形固定資産	14,356	13,957	△ 398
無形固定資産	1,562	1,596	34
投資その他の資産	3,892	4,029	136
固定資産合計	19,811	19,583	△ 227
資産合計	92,559	90,489	△ 2,070

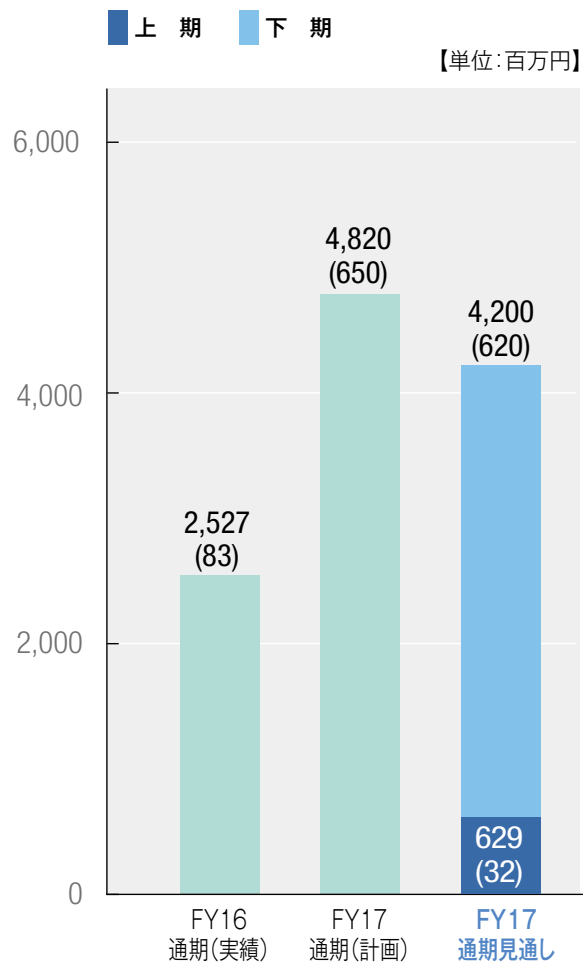
科目	FY16末 2017年3月31日現在	FY17 2Q末 2017年9月30日現在	増減
〈負債の部〉			
流動負債			
支払手形及び買掛金	9,608	7,289	△ 2,318
短期借入金	22,741	22,179	△ 561
工事損失引当金	3,434	2,350	△ 1,084
その他流動負債	16,461	17,165	703
流動負債合計	52,245	48,985	△ 3,260
固定負債			
長期借入金	4,700	4,800	100
その他固定負債	7,610	7,701	91
固定負債合計	12,310	12,501	191
負債合計	64,556	61,487	△ 3,069
〈純資産の部〉			
純資産合計	28,003	29,001	998
負債及び純資産合計	92,559	90,489	△ 2,070

Point

- 流動資産は売掛債権の回収により、受取手形及び売掛金が減少
- 流動負債は支払手形及び買掛金、工事損失引当金が減少
- 自己資本比率 29.4% → 31.2% (1.8ポイント上昇)

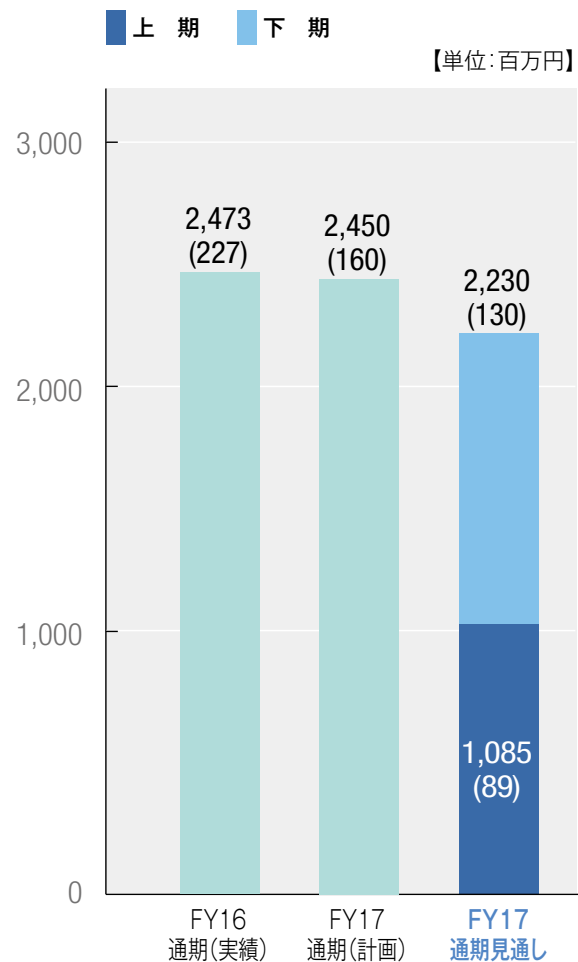
グループ連結 設備投資額/減価償却費/試験研究費

設備投資額(連結)



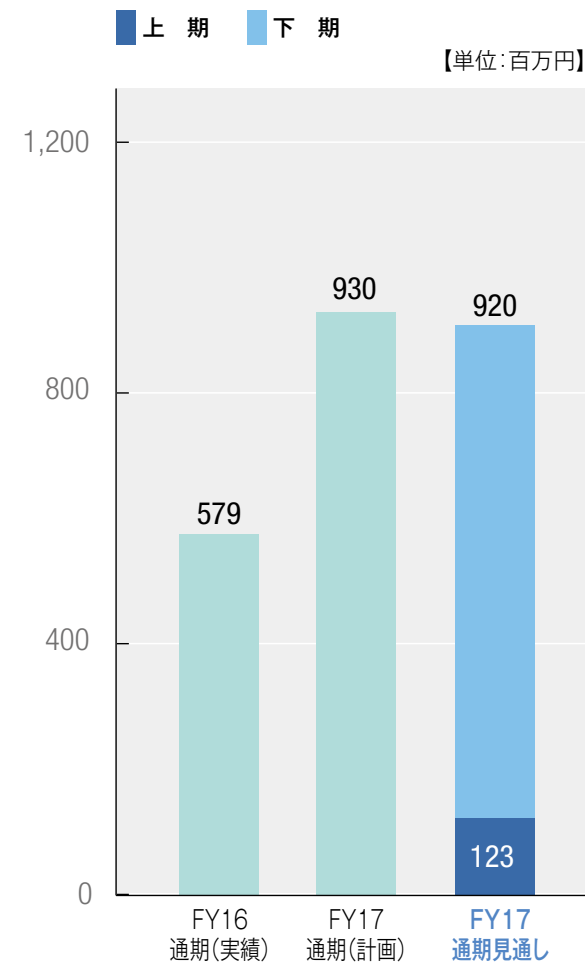
※設備投資には()内の全リース物件を含む。

減価償却費(連結)



※()内はリース資産分。

試験研究費(連結)



(注)計画とは、2017年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。

1 グループ各社の状況(FY17/上期)

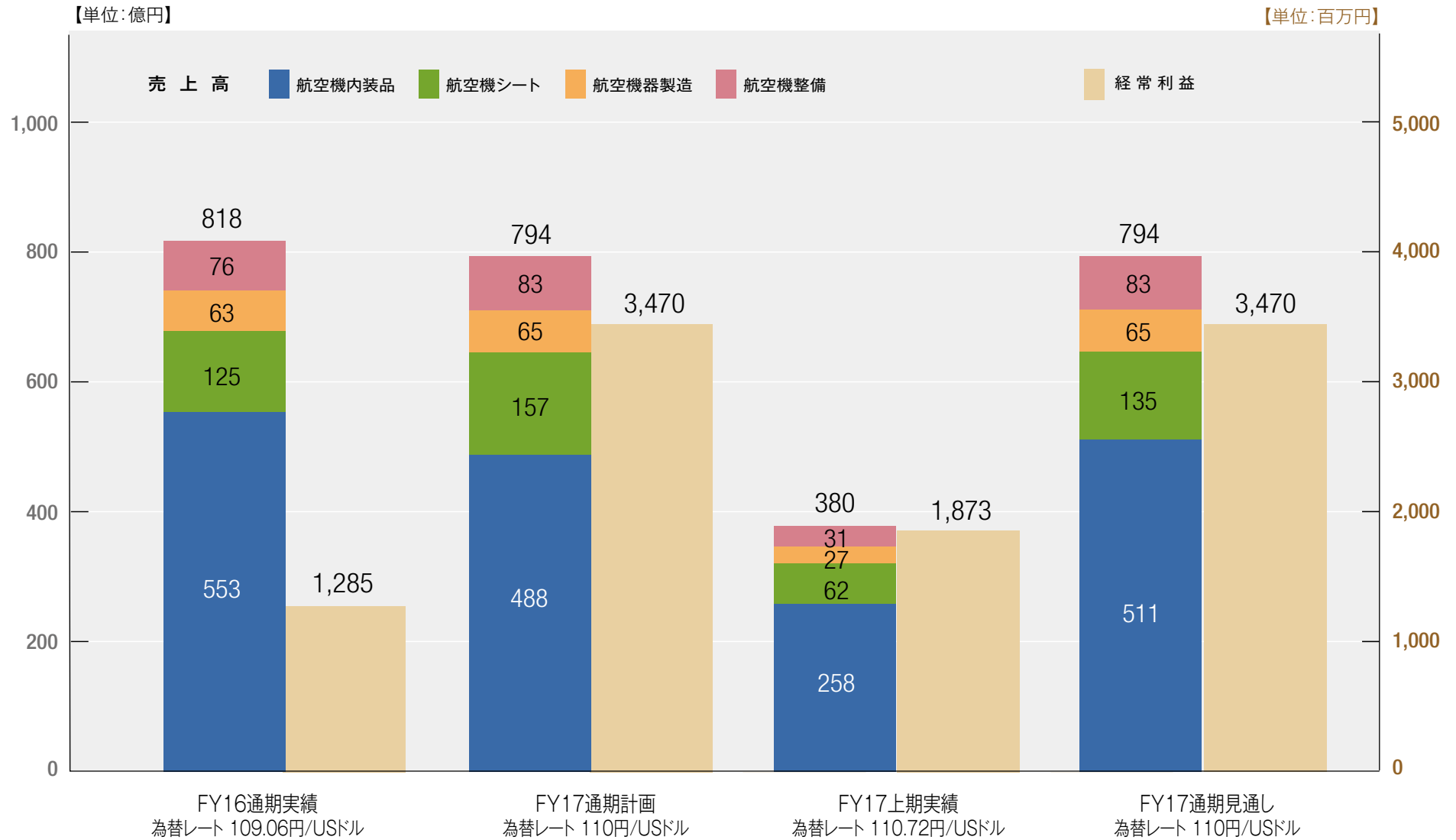
【単位:百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ	シンガポール ジャムコ サービス
売上高	31,940	2,023	1,296	410	10,765	1,260	1,603	349	561	351	238	52	1,910
営業利益	1,231	242	82	27	358 (275)	131	△ 1	52	14	28	10	2	56
経常利益	1,486	250	82	36	1,545 (1,476)	138	△ 2	49	24	28	10	2	56
当期純利益	1,037	167	53	25	1,064 (994)	115	△ 1	43	15	18	6	1	47

(注1)シンガポールジャムコサービスは持分法適用関連会社です。

(注2)ジャムコアメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準で会計処理しています。括弧内の数値は「米国基準」における数値です。

通期見通し



重要項目と課題進捗

- 14 | 中期ビジョン
- 15 | 中期の課題と対応
- 16 | 中期課題の進捗-①
- 17 | 中期課題の進捗-②
- 18 | 中期課題の進捗-③

SECTION

2

中期ビジョン

- **航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の機能を併せ持つオンリーワンの航空機総合企業を目指す**

中期経営指標

- **収益性指標：連結経常利益率 7%以上**
- **効率性指標：連結ROA 7%以上**
- **配当方針：連結配当性向20~30%を目安とする**

2

中期の課題と対応

航空機内装品

- ① 生産技術の革新を加速し、生産性の飛躍的な向上を図り、コスト競争力を一段と強化
- ② サプライチェーンを強化し、品質・コスト・リードタイムをより一層改善
- ③ 革新的な技術と製品により競争力を強化し、顧客との協力関係を更に確固たるものにして、世界シェアNO.1を確保

航空機シート

- ① 設計、開発、調達、生産すべてにおけるコストダウンを加速
- ② 魅力的な製品開発により受注・販売を促進
- ③ グループサプライチェーンの最適化を図り、生産効率を向上

航空機器製造

- ① 関連企業を含め品質及び生産効率を追求し収益性を向上
- ② 国内外の新たな顧客開拓を促進し、受注を拡大
- ③ 新たな開発プロジェクトへの参画等を通じて新製品を受注
- ④ 炭素繊維成型などの製造技術を内装品やシートに応用

航空機整備

- ① 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化
- ② 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化
- ③ 海外市場への展開や海外メーカーとの協業を強化
- ④ MRO Japan株式会社(沖縄に展開予定の航空機整備改造業者)参画への準備を推進

中期課題の進捗-①

航空機内装品

生産性の向上

- エアバスA350型機向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレー開発の専門部署を設置
- ラボトリーの製造工程で導入済みのペーパーレス化をギャレーにも展開

サプライチェーンの強化

- J-Way 2017活動 (JAMCOモノづくり改革) を推進
- 内装品関連の生産を新潟地区に集約

顧客との協力関係を強化

- ボーイング777X型機向け新型ラボトリー開発
- エアバス社 Airbus Supplier Support Rating アワードを受賞



Airbus Supplier Support Rating アワード

中期課題の進捗-②

航空機シート

コスト削減の取組み

- 設計ノウハウ蓄積
- 16G動荷重試験設備の自社設置 (FAAの認可取得完了)

売上拡大

- ボーイング787型機向けプレミアムクラスシート「Venture」および「Journey-B」を発表
- 「Venture」については受注を獲得、FY2018後半に初出荷を予定
- 当社製シート累計納入3,300席以上、受注残2,800席以上 (2017年9月末現在)

生産性の向上

- 宮崎ジャムコにシート生産機能を集約
- EASA認定取得により宮崎ジャムコより直接機体メーカーへの出荷を開始



Venture



Journey-B

中期課題の進捗-③

航空機器製造

収益性の向上

- ジャムコエアロマニュファクチャリングを含めた改善活動を推進
- エアバスA350型機向け貨物室床下炭素繊維構造部材の生産性が向上

受注の拡大

- 特殊工程技術やADP製法の製造技術を強みにした受注活動を展開
- 新規航空機エンジン部品を受注、量産準備

顧客評価

- エアバス社 Zero Concession Award受賞



Zero Concession Award受賞

航空機整備

飛行安全

- 引き続き高品質な航空機整備を提供

新たなビジネスモデル

- 航空機部品販売ビジネスへの取組み
- 高圧ガス事業スタート
- アイベックスエアラインズ株式会社とのパートナーシップ協定締結



2018年3月期 第2四半期決算説明会 添付資料

- 20 | 企業グループ概要
- 21 | 事業概要-①航空機内装品製造事業
- 22 | 事業概要-②航空機シート製造事業
- 23 | 事業概要-③航空機器製造事業
- 24 | 事業概要-④航空機整備事業
- 25 | 事業概要-⑤国内関連会社
- 26 | 事業概要-⑥海外関連会社
- 27 | 航空機メーカーの受注残
- 28 | 新型旅客機の開発・生産状況
- 29 | ボーイング・エアバスの受注・納入状況
- 30 | ボーイングの受注・納入状況
- 31 | エアバスの受注・納入状況
- 32 | 世界の航空旅客予測
- 33 | ジェット機の運航機材構成予測

SECTION 3

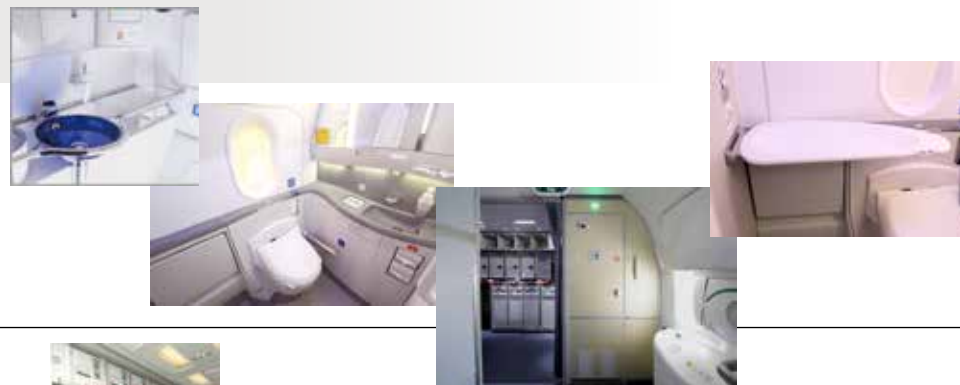
企業グループ概要



航空機内装品製造事業

航空機用ラバトリー(化粧室)の製造

- ボーイング747-8・767・777・777X・787向け
ラバトリーを独占供給



航空機用ギャレー(厨房設備)の製造

- ボーイング747-8・777・787・767・737に搭載
- エアバスA380・A330・A340・A320に搭載
- 世界の航空会社約100社へ納入
- 787向けギャレーを独占供給
- A350向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレーを供給



航空機改修事業

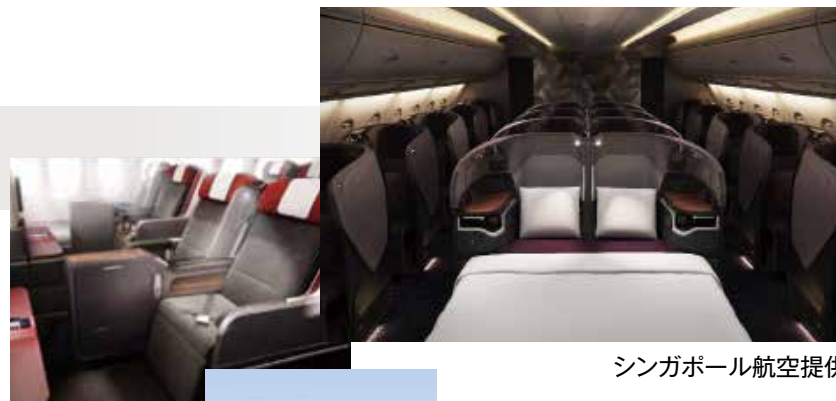
- 客室内装備品の新規搭載、配置換え、及びキャビンクルーの
休憩室搭載等に関する、設計、プロジェクトの管理、取付用部品の製造と認証取得
- アメリカ連邦航空局 (FAA) よりODA認定を取得 (ジャムコアアメリカ)
FAAに代わって航空機客室改造の追加型式証明の発行が可能
- 欧州航空安全庁 (EASA) より設計認証 (DOA) を取得 (ジャムコエアロデザイン&エンジニアリング)



航空機シート製造事業

航空機用シートの製造

- ボーイング787向けプレミアムクラスシート
スタンダードシート (商品名Journey-B, Venture)
- エアバス向けA350 ACS (Airbus Contracted Supplier) シート
スタンダードシート (商品名Journey™ ビジネスクラスシート)
- シンガポール航空向けファースト、ビジネスクラスシート
ボーイング777-300ER用ファースト、ビジネスクラスシート
エアバスA350用ビジネスクラスシート
エアバスA380用ビジネスクラスシート



シンガポール航空提供



航空機用シートコンソールの製造

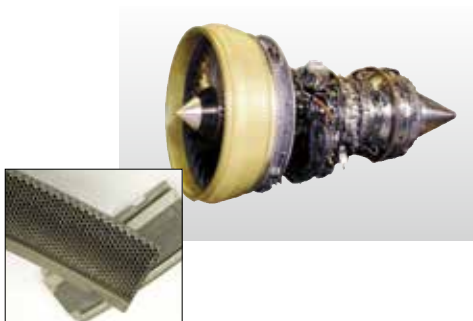
- プレミアムクラス シートコンソール
シンガポール航空エアバスA380用スイートクラス・シートコンソール
全日空ボーイング777-300ER用ファーストクラス・シートコンソール



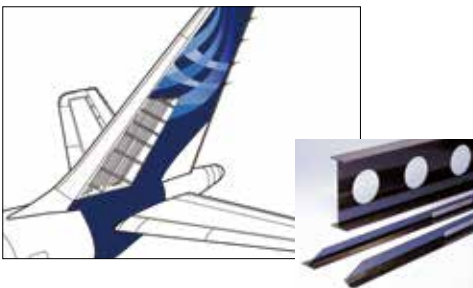
航空機器製造事業



航空機用熱交換器及び
各種航空機搭載機器の製造



ジェットエンジン部品の製造



航空機用炭素繊維構造部材の製造

- エアバスA380用2階床構造部材 (ADP)
- エアバスA350を除くエアバス機の垂直尾翼構造部材 (ADP)
- エアバスA350貨物室床下構造材

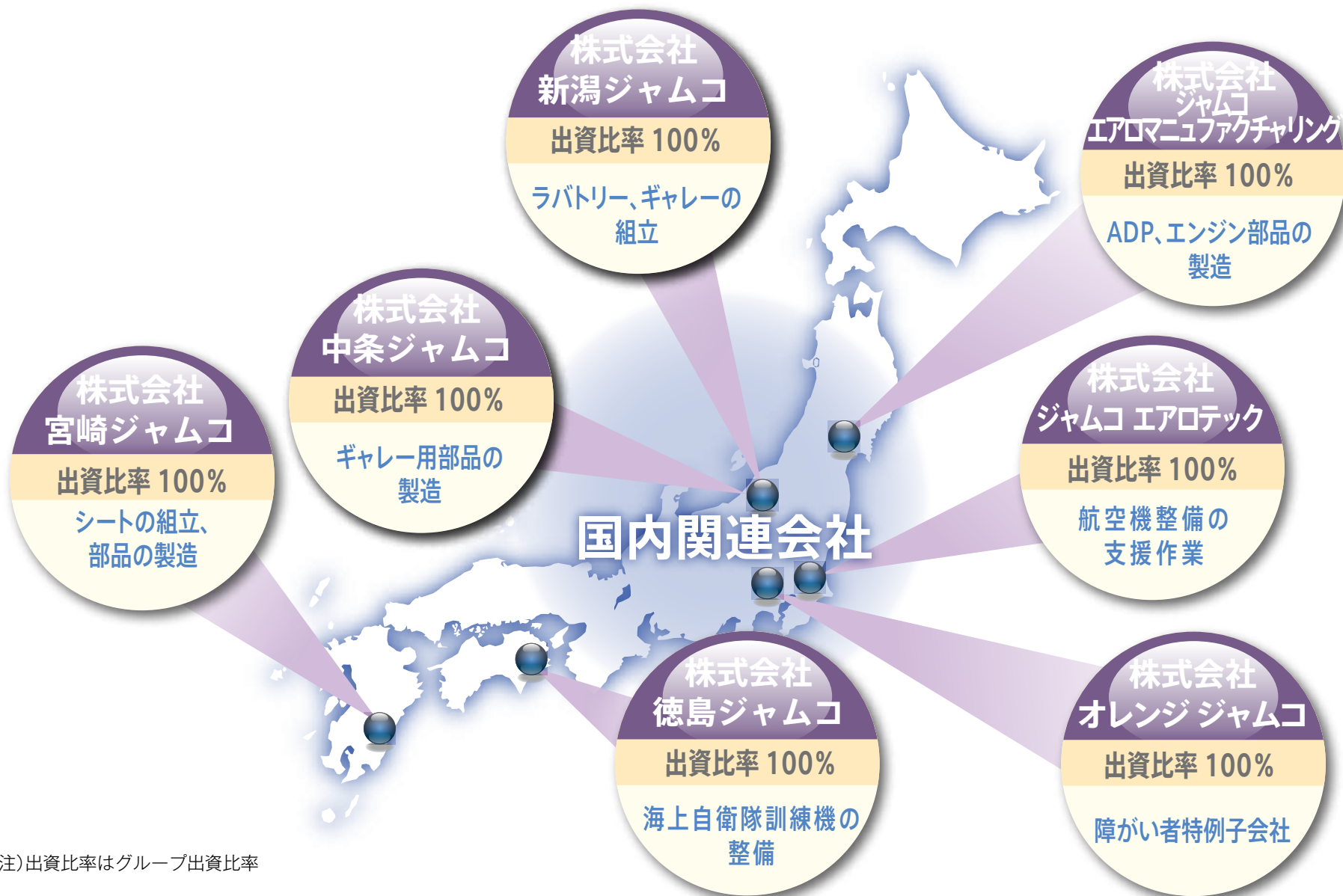
航空機整備事業



防衛省、海上保安庁、航空大学校、 エアラインなどの航空機、 装備品整備事業

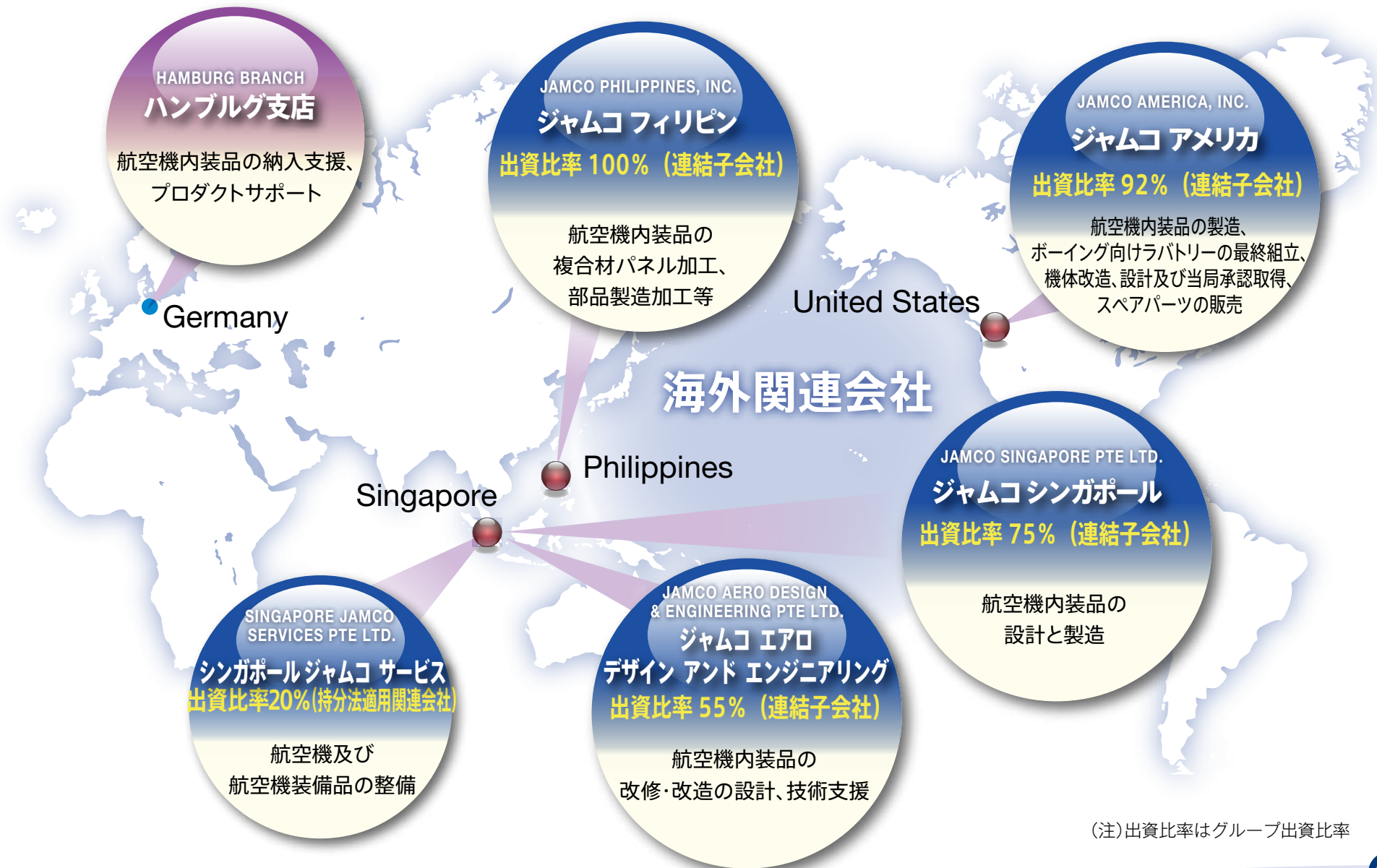
- 中型・小型航空機及びヘリコプターの整備・改造
- リージョナル機の整備
- プロペラ、脚、航空電子機器の整備
- 車輪、ブレーキ、救難用ホイス（吊り上げ装置）のオーバーホール
- 大型旅客機客室内装備品の整備
- エバキュエーション（緊急脱出）スライドの整備
- 高圧ガス事業

事業概要-⑤



(注)出資比率はグループ出資比率

事業概要-⑥



航空機メーカーの受注残

ボーイング社の受注残機数

狭胴機

4,431 機

(前年同期 4,350機)

広胴機

1,228 機

(前年同期 1,262機)

エアバス社の受注残機数

狭胴機

5,520 機

(前年同期 5,520機)

広胴機

1,171 機

(前年同期 1,229機)

(注)2017年9月末時点

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

新型旅客機の開発・生産状況

787の生産状況

- 2017年9月末日現在、600機の引き渡しを完了
- 2017年9月末日現在、受注残機数は683機

777Xの開発状況

- 2020年に初号機引き渡し予定
- 2017年9月末日現在、受注残機数は326機

737MAXの生産状況

- 2017年9月末日現在、30機の引き渡しを完了
- 2017年9月末日現在、受注残機数は3,872機

A380の生産状況

- 2017年9月末日現在、216機の引き渡しを完了
- 2017年9月末日現在、受注残機数は101機

A350XWBの生産状況

- 2017年9月末日現在、114機の引き渡しを完了
- 2017年9月末日現在、受注残機数は744機

A330neoの開発状況

- 2018年半ば頃に初号機引き渡し予定
- 2017年9月末日現在、受注残機数は212機

A320ファミリーneoの生産状況

- 2017年9月末日現在、158機の引き渡しを完了
- 2017年9月末日現在、受注残機数は5,044機

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

ボーイング・エアバスの受注・納入状況

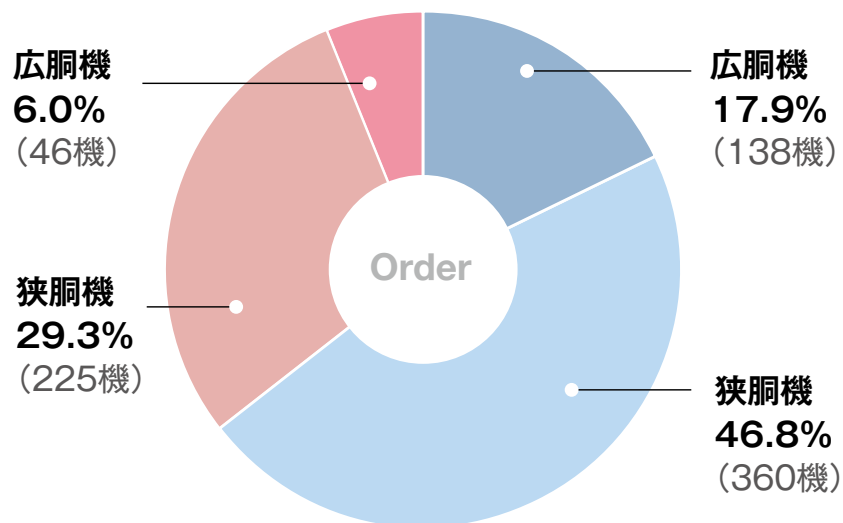
(2017年1月～9月累計)

受注状況

●エアバス社

35.2%
(271機)

●ボーイング社

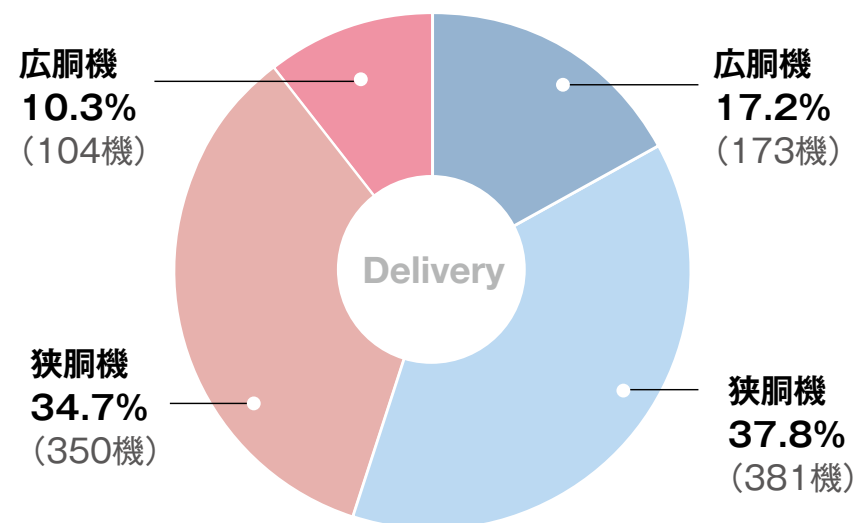
64.8%
(498機)

納入状況

●エアバス社

45.0%
(454機)

●ボーイング社

55.0%
(554機)

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

ボーイングの受注・納入状況

(2017年1月～9月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
ボーイング合計	498	554	5,659
747	△ 3	8	17
777/777X	43	58	427
787	83	100	683
767	15	7	101
737	360	381	4,431

(注1) ■色の機種は広胴機(ワイドボディ機)を示す。

(注2) ボーイング777/777Xの受注残には777Xの受注残326機を含む。

(注3) 受注は正味受注機数を示す。

出所：ボーイング社 HP

エアバスの受注・納入状況

(2017年1月～9月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
エアバス合計	271	454	6,691
A380	△ 2	9	101
A350	40	50	744
A330/A340	8	45	326
A320ファミリー	225	350	5,520

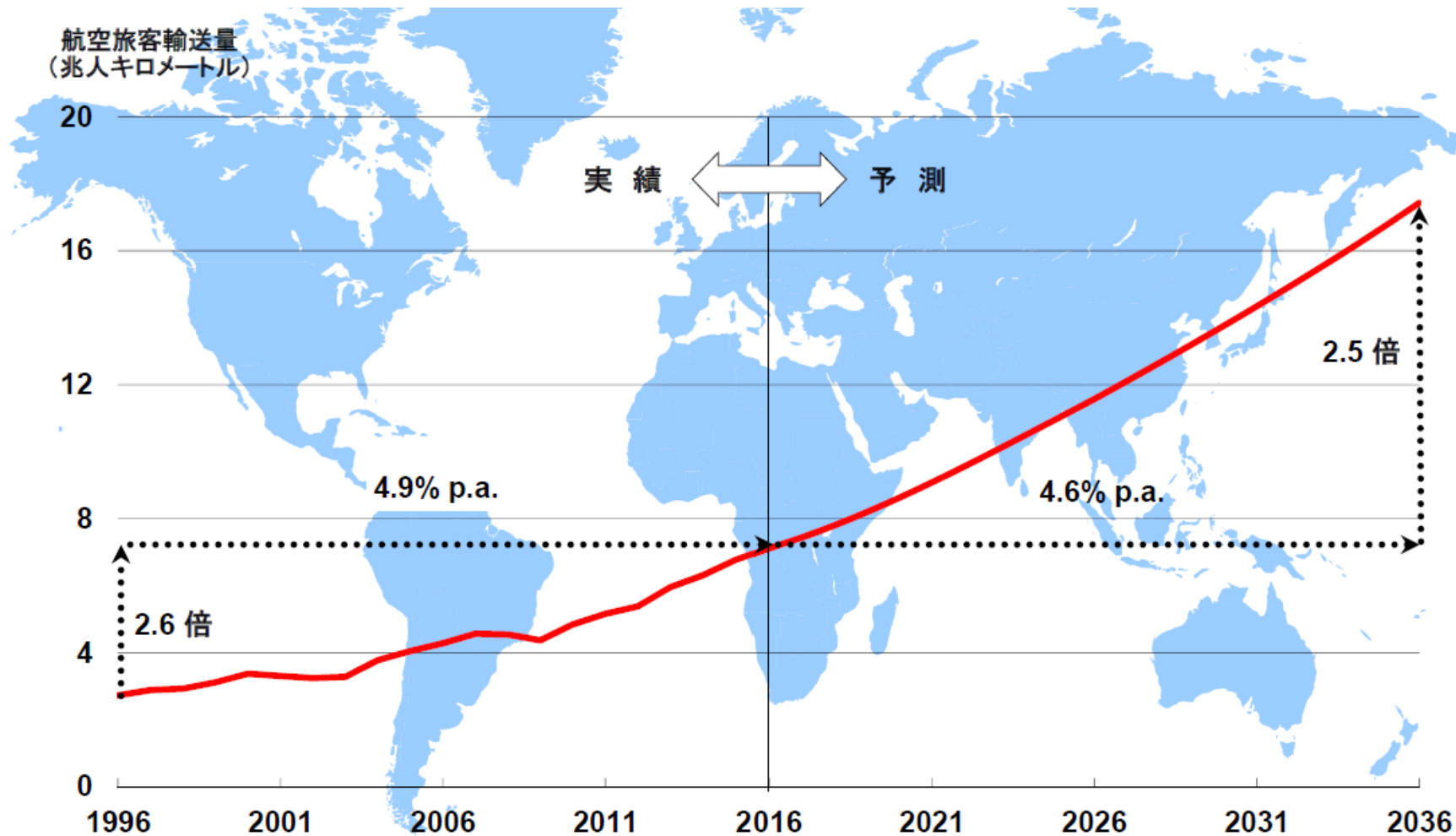
(注1) ■色の機種は広胴機(ワイドボディー機)を示す。

(注2) 受注は正味受注機数を示す。

出所：エアバス社 HP

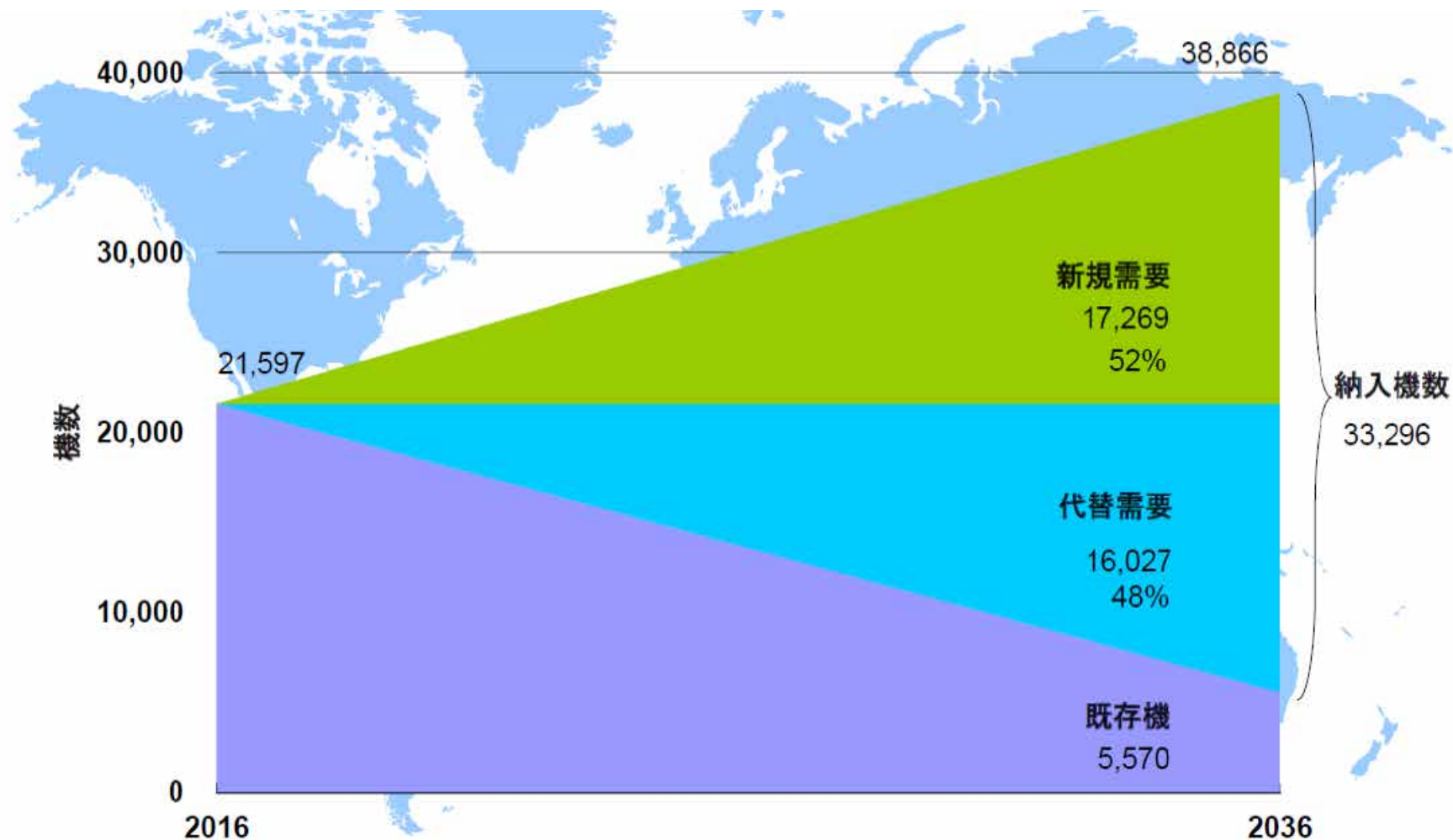
世界の航空旅客予測

2017-2036年の20年間の航空旅客輸送量の成長率は年平均4.6%と予測



ジェット機の運航機材構成予測

今後20年間の世界の需要は33,296機、その内新規需要は17,269機



技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**
ALWAYS FLY TOGETHER



Always Fly Together